

同志社ローム記念館大賞発表会

これまで、最終成果報告会と大賞発表会は別日程で開催されてきたが、今年はSCoP(スコープ)発案のもと、はじめて報告会と大賞発表会を同日に開催する形式が採り入れられた。報告会終了後の厳正な審査ののち、同日夕刻に開催された「同志社ローム記念館大賞発表会」にて授賞プロジェクトが発表され、授賞式がおこなわれた。審査を待つあいだには、交流会(第1部)として、お楽しみ企画のビンゴゲームが催された。

賞の発表、授賞式をはさんで、軽食を交えながらの交流会(第2部)がおこなわれ、メンバーが互いの健闘を称えあい交流をはかった。また第二部の終盤には、事務室スタッフからのサプライズ企画として、1年間の活動の振り返りとSCoPの活躍をまとめた映像が放映され、次の新しい1年にむけて気持ちを新たにした。



受賞プロジェクト

同志社ローム記念館大賞 トロフィー・賞状・副賞(賞金10万円・記念品)

該当なし

大賞

同志社ローム記念館大賞 優秀賞 トロフィー・賞状・副賞(賞金5万円・記念品)

優秀賞

ソーシャルメディアスタジオ“ことりんく”
～関西学生USTREAM配信し隊～

公募プロジェクト



【授賞理由】

継続的に取り組むプロジェクトが多い中、1年間の中で、計画的に全体制で目標達成に向けて取り組むことができました。

対象となるユーザーを絞り込み、そのニーズに応えられるようコンテンツを検討すればさらに充実した内容を発信できた可能性もありますが、社会に向けて独自性ある情報発信を活発に行えた点は高く評価できます。

今回の経験をもとにメンバー各自が今後ますます活躍されることを期待しています。

- プロジェクトリーダー
矢倉 和雄 (同志社大学文化情報学部)
- プロジェクト責任者
多田 実 (同志社大学政策学部教授)
- メンバー数 14名



奨励賞

賞状、記念品

ROBO+

公募プロジェクト



- プロジェクトリーダー
松下 晃
(同志社大学理工学部)
- プロジェクト責任者
橋本雅文
(同志社大学理工学部教授)
- メンバー数 16名

【授賞理由】

公募プロジェクトとして、メンバー同士協力しあい、着実にプロジェクト活動を進められました。また、プロジェクトで大切なノウハウをしっかりと継承し、メンバーの大きな成長がみられます。

マスコットロボットは未完成となりましたが、今後ものづくりの楽しさを社会に伝えていくこと、誰にも愛されるロボット作りに期待しています。

奨励賞

賞状、記念品

病院検索おたすけツール 開発プロジェクト

誘致プロジェクト



- プロジェクトリーダー
久原拓也
(同志社大学理工学部)
- プロジェクト責任者
廣安知之
(同志社大学生命医科学部教授)
- メンバー数 12名

【授賞理由】

誘致プロジェクトとして、企業のミッションを理解し、必要な技術を主体的に習得しながら、一定の成果をあげたことは評価できます。

より実用性の高いコンテンツとして発展していくことが期待されます。

外部審査員特別賞

賞状、記念品

ROBO+

公募プロジェクト



- プロジェクトリーダー
松下 晃 (同志社大学理工学部)
- プロジェクト責任者
橋本雅文 (同志社大学理工学部教授)
- メンバー数 16名

【授賞理由】

- 未完成の面もあるが、非常に親しみやすさもあるものであった
- マスコットになれるかはわからないが、ものづくりを形に出来たのが良かった
- プレゼンテーションから、メンバーが楽しくプロジェクトに取り組んでいる様子がかげえ、同志社ルーム記念館のプロジェクトとして良い活動であったと推察される。
- また、今後センサを搭載することなどにより、ITメディアテクノロジーへの発展を感じさせた。是非マスコットになれるようなロボットの進化を期待したい



学生相互評価

今年は、学生たちの相互評価による賞として、新たに2つの賞が設けられた。

「ベストプレゼンテーション賞」は、報告会でのプレゼンテーションにおいてその表現力が最も素晴らしかったメンバーに、「MVP賞」は、各プロジェクトの活動をとおして本年度最も成長したメンバーに授与された。

ベストプレゼンテーション賞

小羽田 諭孝 さん(病院検索おたすけツール開発プロジェクト)



MVP賞

鹿取 大祐 さん(同志社エコプロジェクト～あすみチャンネル～)

嫁 兼 弘 修 さん(ゲームソフトの評価とニーズを探る)

松下 晃 さん(ROBO+)

永田 健人 さん

(ソーシャルメディアスタジオ“ことりんく”～関西学生USTREAM配信し隊～)

児玉 知恵 さん(ワヤック)

小羽田 諭孝 さん(病院検索おたすけツール開発プロジェクト)

杉田 達哉 さん

(もっとふりいネット～障がいを持った人たちがつくる製品、ネット販売プロジェクト～)

浅井 友紀 さん(舞台計画)

坂本 風 さん(コアパブリック)



SCoP (Students Cooperation Project) メンバーレポート



コアプロジェクト「舞台計画」

福森千恵

同志社女子大学 学芸学部3年生

プロジェクト実施体制の変化があり、本年度からはSCoPメンバーの複数プロジェクトによる担当班で連携して企画運営を行った。学生コアスタッフ時代に引き続き、SCoPの担当班メンバーとして参加した2011年度最終成果報告会・同志社ローム記念館大賞発表会。1日で報告会と大賞発表会をスムーズに運営するためにどうすればいいか、PJメンバーの動きや、進行シナリオ等、様々な点での検討が必要だった。夜遅くまで話し合ったり、事務室に駆け込んだ



では「もっとよく考えてきて」と追いつけられたりした。私たち担当班のメンバーは自分のプロジェクトの最終成果報告の準備と並行しながらの作業で多忙を極めた。また、例年難航するのが2009年度より導入された学生相互評価のしくみづくりだ。本年度は4月から交流会の数を増やし、他プロジェクトとの交流を増やすなどの工夫もしたが、やはりお互いに活動状況を評価するのは難しいと判断し、最終成果報告の発表者のプレゼン技術を評価してもらう「ベストプレゼンテーション賞」、各プロジェクト内で一番成長したメンバーを選出する「MVP賞」の2賞となった。本当の学生相互評価ができるような体制を整えるのが今後の課題だ。たいへんだったが、交流会の司会で前に立った際、メンバーのみなさんの「1年間やりきった」という顔が見ることが出来て、とても嬉しく思った。

